



## 平成25年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

平成24年11月9日

上場会社名 株式会社 ケアネット

コード番号 2150 URL <http://www.carenet.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

問合せ先責任者 (役職名) 管理本部財務部長

四半期報告書提出予定期 平成24年11月13日

配当支払開始予定期 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東

TEL 03-5214-5800

(氏名) 大野 元泰

(氏名) 角谷 芳広

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成25年3月期第2四半期の業績(平成24年4月1日～平成24年9月30日)

#### (1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年3月期第2四半期	742	△1.5	△65	—	△78	—	△79	—
24年3月期第2四半期	753	△6.3	△152	—	△155	—	△205	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
25年3月期第2四半期	△1,532.99	—
24年3月期第2四半期	△3,952.08	—

#### (2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
25年3月期第2四半期	1,201	965	80.1	18,503.62
24年3月期	1,350	1,045	77.2	20,034.78

(参考) 自己資本 25年3月期第2四半期 962百万円 24年3月期 1,041百万円

#### 2. 配当の状況

	年間配当金					合計
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末		
24年3月期	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00	0.00
25年3月期(予想)	—	0.00	—	—	930.00	930.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

#### 3. 平成25年3月期の業績予想(平成24年4月1日～平成25年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
通期	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- |                      |     |
|----------------------|-----|
| ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 | : 有 |
| ② ①以外の会計方針の変更        | : 無 |
| ③ 会計上の見積りの変更         | : 有 |
| ④ 修正再表示              | : 無 |

(注)「四半期財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」第5条の4に該当するものであります。詳細は、添付資料P. 6「2. サマリー情報(注記事項)に関する事項 (1)会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示」をご覧ください。

(3) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	25年3月期2Q	52,420 株	24年3月期	52,420 株
② 期末自己株式数	25年3月期2Q	419 株	24年3月期	419 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	25年3月期2Q	52,001 株	24年3月期2Q	52,001 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期報告書のレビュー手続が実施中です。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、作成日現在において入手可能な情報に基づいて算定しております。今後の経済状況等の変化により、実際の業績は異なる結果となる可能性があります。

## ○添付資料の目次

1.	当四半期決算に関する定性的情報	2
(1)	経営成績に関する定性的情報	2
(2)	財政状態に関する定性的情報	3
(3)	業績予想に関する定性的情報	6
2.	サマリー情報（注記事項）に関する事項	6
(1)	会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	6
3.	継続企業の前提に関する重要事象等	6
4.	四半期財務諸表	7
(1)	四半期貸借対照表	7
(2)	四半期損益計算書	8
	第2四半期累計期間	8
(3)	四半期キャッシュ・フロー計算書	9
(4)	継続企業の前提に関する注記	10
(5)	株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	10
(6)	セグメント情報等	10
5.	補足情報	12
	注記事項	12

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する定性的情報

当第2四半期累計期間におけるわが国経済は、欧州金融危機や長引く円高などの影響を受け、依然として不透明な状況で推移しております。

医療業界においては、平成22年度の診療報酬改定により、報酬配分の見直しが行われたことから、開業医と勤務医の報酬格差の是正が行なわれております。しかしながら、医師不足や医師の過重労働の問題は未だ解決がされておらず、そのようななかでも医師は医療の質の向上が求められ、多忙を極めています。

このような状況のもと、患者に質の高い医療を提供し続けるためには、医師が日頃から医療情報の収集や学習を欠かさないことが重要であり、限られた時間のなかで効率よく習得できるコンテンツサービスに高いニーズがあります。

一方、製薬業界においては、薬価マイナス改定やジェネリック医薬品の使用促進などの医療費抑制策が推し進められ、依然 国内外の製薬企業の収益環境は厳しい状況にあります。そのため、製薬企業においては、新薬の研究開発や営業・マーケティング活動における生産性向上が重要視されており、経費が削減されるなかで、より生産性の向上に資する厳選されたサービスに高いニーズがあります。

このような背景のなか、当社は、特に製薬企業が抱える営業・情報提供活動の課題解決を事業機会と捉え、積極的に対応しております。前期（平成24年3月期）には、「MR P 1 u s®」を市場投入したことにより、プライマリケア領域の大型薬剤からスペシャリティ領域で上市が続いている新薬まで、幅広い領域でマーケティング支援を行なうことを可能といたしました。これにより当社は、「MR P 1 u s®」を今後の主力サービスと位置づけ、製薬企業への導入に努めています。

これらの活動を行うなか、当第2四半期累計期間においては、売上高は742百万円（前年同四半期比1.5%減）、売上総利益は478百万円（前年同四半期比10.6%増）、営業損失は65百万円（前年同四半期は営業損失152百万円）、経常損失は78百万円（前年同四半期は経常損失155百万円）となりました。これらの結果、四半期純損失は79百万円（前年同四半期は四半期純損失205百万円）となりました。

セグメントごとの業績は、次のとおりです。

#### ①医薬営業支援サービス

当サービスにおいては、「eディテーリング®」の実施件数は5件（前年同四半期は18件）、売上高は147百万円（前年同四半期比45.4%減）となりました。また、「MR P 1 u s®」の売上高は227百万円（前年同四半期比54.4%増）、「スポンサーWebコンテンツ制作」の売上高は133百万円（前年同四半期比49.1%増）となりました。

この結果、医薬営業支援サービスの売上高は517百万円（前年同四半期比1.8%減）となりました。

#### ②マーケティング調査サービス

当サービスにおいては、「eリサーチ™」の実施件数が41件（前年同四半期は50件）となりました。

この結果、売上高は116百万円（前年同四半期比2.0%減）となりました。

#### ③医療コンテンツサービス

当サービスにおいては、医師向け教育コンテンツ「ケアネットDVD」の売上高は61百万円（前年同四半期比22.8%減）、インターネットによる動画配信サービス「医楽座」の売上高は45百万円（前年同四半期比68.8%増）となり、医療コンテンツサービスの売上高は107百万円（前年同四半期比0.4%増）となりました。

また、医師・医療従事者向け医療専門サイト「ケアネット・ドットコム（CareNet.com）」においては、医師会員獲得および維持を目的に、前期に引き続き積極的に投資を行っております。これにより、当第2四半期累計期間末の医師会員数は11万人（前年同四半期は10万2千人）となりました。

## (2) 財政状態に関する定性的情報

文中における将来に関する事項は、当四半期会計期間の末日現在において入手し得る情報に基づいて当社が判断したものであります。なお、今後の予測しえない経済状況の変化等様々な要因があるため、その結果について当社が保証するものではありません。

## ① 経営成績および財政状態を分析する上での視点

当社は、主として、次の3つの視点から経営成績および財務状態を分析しております。

- a. 成長性の視点：当社の中心的なサービス「e ディテーリング®」および「MR P l u s®」の成長性
- b. 収益性の視点：売上総利益率、および 営業利益率等の改善状況
- c. 健全性の視点：流動性を初めとする財務基盤や資金調達能力に資する要因

## ② 成長性

当社は、医師会員の協力を得ることにより、製薬企業向けに「医薬営業支援サービス」および「マーケティング調査サービス」を提供し、一方 医師会員の獲得を目的に医師に向けて「医療コンテンツサービス」の提供を行っております。これらサービス別の売上高と売上構成比の推移の状況は、次のとおりであります。

回次	第14期		第15期		第16期		第17期		第17期 第2四半期 累計期間		第18期 第2四半期 累計期間	
	平成21年3月		平成22年3月		平成23年3月		平成24年3月		平成23年9月		平成24年9月	
	売上高 (百万円)	構成比 (%)	売上高 (百万円)	構成比 (%)	売上高 (百万円)	構成比 (%)	売上高 (百万円)	構成比 (%)	売上高 (百万円)	構成比 (%)	売上高 (百万円)	構成比 (%)
医薬営業支援サービス	1,757	66.3	1,499	69.0	981	60.2	1,103	69.3	527	70.0	517	69.8
e ディテーリング®	987	37.3	794	36.5	715	43.9	479	30.1	270	35.9	147	19.9
MR P l u s®	—	—	—	—	—	—	262	16.5	147	19.5	227	30.6
スポンサードWeb コンテンツ制作	683	25.8	638	29.4	200	12.3	299	18.8	89	11.9	133	18.0
その他	86	3.2	66	3.1	65	4.0	61	3.9	19	2.7	9	1.3
マーケティング調査 サービス	449	17.0	259	11.9	249	15.3	259	16.3	119	15.8	116	15.7
e リサーチ™他	449	17.0	259	11.9	249	15.3	259	16.3	119	15.8	116	15.7
医療コンテンツサービス	442	16.7	415	19.1	398	24.5	230	14.4	107	14.2	107	14.5
CareNetTV・ メディカルCh.®	228	8.6	203	9.3	180	11.1	—	—	—	—	—	—
医楽座	—	—	—	—	—	—	57	3.6	27	3.6	45	6.2
ケアネットDVD他	213	8.1	212	9.8	217	13.4	172	10.8	79	10.6	61	8.3
合計	2,649	100.0	2,173	100.0	1,629	100.0	1,593	100.0	753	100.0	742	100.0

(注) 医師向け教育番組「ケアネットTV・メディカルCh.®」は、平成23年4月からインターネットによる動画配信サービス「医楽座」に移行しております。

## (ア) 成長性の鍵となる医師会員数について

回次	第14期		第15期		第16期		第17期		第17期 第2四半期 累計期間		第18期 第2四半期 累計期間	
決算年月	平成21年3月		平成22年3月		平成23年3月		平成24年3月		平成23年9月		平成24年9月	
	前年同期比 (%)		前年同期比 (%)		前年同期比 (%)		前年同期比 (%)		前年同四半期比(%)		前年同四半期比(%)	
医師会員数(千人)	88	+11.2	95	+8.1	100	+5.4	106	+5.9	102	+3.8	110	+8.5

当第2四半期累計期間において、医師会員数は約4千人増加し、当第2四半期累計期間末の医師会員数は11万人（前年同四半期末は10万2千人）となりました。当社は、医師会員の増加が、「eディテーリング®」および「MR P l u s®」の各サービスの品質を高め、売上高を伸ばす要素であると考えております。

なお、この点を示す指標については、下記「(イ) 「eディテーリング®」および「MR P l u s®」の売上高合計の成長について」とおりであります。

## (イ) 「eディテーリング®」および「MR P l u s®」の売上高合計の成長について

回次	第14期		第15期		第16期		第17期		第17期 第2四半期 累計期間		第18期 第2四半期 累計期間	
決算年月	平成21年3月		平成22年3月		平成23年3月		平成24年3月		平成23年9月		平成24年9月	
	前年同期比 (%)		前年同期比 (%)		前年同期比 (%)		前年同期比 (%)		前年同四半期比(%)		前年同四半期比(%)	
「eディテーリング®」および「MR P l u s®」売上高合計（百万円）	987	△10.4	794	△19.6	715	△9.9	742	+3.8	417	+18.7	374	△10.3
<b>「eディテーリング®」</b>												
売上高(百万円)	987	△10.4	794	△19.6	715	△9.9	479	△33.0	270	△23.1	147	△45.4
実施件数(件) (注)	14	△36.4	30	+114.3	41	+36.7	28	△31.7	18	△14.3	5	△72.2
実施企業数(社)	7	△12.5	15	+114.3	13	△13.3	12	△7.7	9	+12.5	4	△55.6
<b>「MR P l u s®」</b>												
売上高(百万円)	—	—	—	—	—	—	262	—	147	—	227	+54.4
実施企業数(社)	—	—	—	—	—	—	2	—	2	—	5	+150.0

(注) 「eディテーリング®」実施件数は、各期においてサービス実施を開始した件数であります。

当第2四半期累計期間において、「eディテーリング®」の実施件数は5件（前年同四半期比72.2%減）と減少し、売上高は147百万円（前年同四半期比45.4%減）となりました。一方、「MR P l u s®」の実施企業数は5社（前年同四半期比150.0%増）となり、売上高は227百万円（前年同四半期比54.4%増）となりました。

これらの結果、「eディテーリング®」および「MR P l u s®」の売上高合計は374百万円（前年同四半期比10.3%減）となりました。今後も、「MR P l u s®」の拡販および「eディテーリング®」の売上高維持に努め、「eディテーリング®」および「MR P l u s®」の売上高合計を伸ばしてまいります。

## (3) 収益性

回次	第14期	第15期	第16期	第17期	第17期 第2四半期 累計期間	第18期 第2四半期 累計期間
決算年月	平成21年3月	平成22年3月	平成23年3月	平成24年3月	平成23年9月	平成24年9月
売上総利益率(%) (注) 1	46.0	33.9 (12.1%減)	54.0 (20.1%増)	58.6 (4.6%増)	57.5 (4.6%増)	64.5 (7.0%増)
販売費及び一般管理費比率(%) (注) 2	38.0	40.4 (2.4%増)	77.6 (37.2%増)	75.8 (1.8%減)	77.8 (4.8%増)	73.4 (4.4%減)
営業利益または営業損失 (△)(百万円)	213 (△46.8%)	△140 (-)	△383 (-)	△273 (-)	△152 (-)	△65 (-)
営業利益率(%) (注) 3	8.1	△6.5 (14.5%減)	△23.6 (17.1%減)	△17.2 (6.4%増)	△20.3 (-)	△8.8 (-)

(注) 1 売上総利益率は、売上総利益を売上高で除して算出しております。

2 販売費及び一般管理費比率は、販売費及び一般管理費を売上高で除して算出しております。

3 営業利益率は、営業利益を売上高で除して算出しております。

4 表中の( )書きは、前年同期比であります。

当第2四半期累計期間は、売上高742百万円(前年同四半期比1.5%減)、売上総利益率は64.5%(前年同四半期比7.0ポイント改善)、販売費及び一般管理費比率は73.4%(前年同四半期比4.4ポイント改善)となり、営業損失は65百万円(前年同四半期は営業損失152百万円)、営業利益率は△8.8%(前年同四半期は△20.3%)となりました。

## (4) 健全性

回次	第14期	第15期	第16期	第17期	第17期 第2四半期 累計期間	第18期 第2四半期 累計期間
決算年月	平成21年3月	平成22年3月	平成23年3月	平成24年3月	平成23年9月	平成24年9月
総資産額(百万円)	2,870	2,286	1,823	1,350	1,549	1,201
純資産額(百万円)	2,457	1,999	1,524	1,045	1,319	965
自己資本比率(%)	85.6	87.3	83.4	77.2	84.9	80.1
現金及び現金同等物(百万円)	689	402	500	354	272	382
営業活動によるキャッシュ・フロー(百万円)	293	△69	△198	△307	△249	△55
流動比率(%) (注) 1	620.3	732.0	517.1	405.2	564.5	469.0
流動資産比率(%) (注) 2	89.3	91.7	79.7	86.7	77.7	85.9
有利子負債残高(百万円) (注) 3	0	-	-	-	-	-

(注) 1 流動比率は、流動資産合計額を流動負債合計額で除して算出しております。

2 流動資産比率は、流動資産合計額を総資産額で除して算出しております。

3 第14期の有利子負債残高は、未経過リース料残高のみとなっております。

当第2四半期累計期間末時点での現金及び現金同等物残高382百万円、自己資本比率80.1%の水準、および有利子負債残高なしの各指標から健全性を確保していると判断しております。

##### ⑤ キャッシュ・フローの状況

当第2四半期累計期間末における現金及び現金同等物（以下、「資金」という。）の残高は、前事業年度末と比較して27百万円増加し、382百万円（前事業年度末比7.8%増）となりました。

当第2四半期累計期間における各キャッシュ・フローの状況は次のとおりであります。

###### (営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動により支出した資金は、55百万円（前年同四半期は249百万円の支出）となりました。これは、主に減価償却費12百万円、売上債権の減少56百万円などによる資金の増加と、税引前四半期純損失78百万円の計上、仕入債務の減少24百万円、未払金の減少28百万円などによる資金の減少との差引きによるものであります。

###### (投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動により得られた資金は、86百万円（前年同四半期は25百万円の収入）となりました。これは、主に定期預金の払戻による収入100百万円などによる資金の増加と、自社利用ソフトウェア開発等による支出12百万円などによる資金の減少との差引きによるものであります。

###### (財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動により支出した資金は、0百万円（前年同四半期は1百万円の支出）となりました。これは、配当金の支払いによるものであります。

#### (3) 業績予想に関する定性的情報

平成25年3月期第2四半期累計期間個別業績予想につきましては、平成24年5月10日に公表しました業績予想と差異が生じております。詳細は平成24年11月9日公表の「平成25年3月期第2四半期累計期間個別業績予想との差異に関するお知らせ」をご参照ください。

なお、平成25年3月期通期個別業績予想につきましては、平成24年5月10日に公表いたしました業績予想から変更はありません。

### 2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

#### (1) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

##### (減価償却方法の変更)

当社は、法人税法の改正に伴い、第1四半期会計期間より、平成24年4月1日以後に取得した有形固定資産について、改正後の法人税法に基づく減価償却方法に変更しております。

なお、この変更による当第2四半期累計期間の損益に与える影響はありません。

### 3. 繼続企業の前提に関する重要事象等

当社は、直近3期において営業損失、および 営業活動によるキャッシュ・フローのマイナスが生じております。これらの主な要因は、「eディテーリング®」などの既存サービスの売上高が年々減少するなか、新サービスである「MR Plus®」、「レジデントJapan」および「ProファーマCH」による売上高が、計画どおりに獲得できなかつたことにあります。

これらにより、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような状況が発生しております。当社は、当該状況を解消するため、引き続き下記の対応策を進めてまいります。

なお、当社は事業活動を継続するための必要十分な手元資金を保有しております。

#### a. 新サービス売上高による業績回復

前期（平成24年3月期）にサービスを開始した「MR Plus®」においては、今後の売上高の拡販に注力し、また病院向け教育メディア「レジデントJapan」および 調剤薬局向け教育メディア「ProファーマCH」の2つのサービスにおいては、本格稼働を実施することにより、業績回復を図り、その後の中長期においても、利益成長を図ります。具体的には、「MR Plus®」は、既に導入した製薬企業の成果実績を基に営業・マーケティング活動を展開していくことに注力してまいります。また、「レジデントJapan」および「ProファーマCH」は、サービス導入のために、営業体制の強化および導入先でのサービス満足度を高めていくことに注力してまいります。

#### b. 既存サービス売上高の維持、または增收

既存サービスである「eディテーリング®」および「eリサーチ™」は、ここ数年間において売上高の減少傾向が続きました。これらのサービスは、売上総利益率の高いサービスであり、売上高の減少傾向は、営業利益に大きな影響を与えております。当期（平成25年3月期）においては、引き続き営業部門および制作部門の人員補強を行うなどの体制強化により、減少傾向であったこれらサービスの売上高の維持、または增收を図ります。

4. 四半期財務諸表  
 (1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (平成24年3月31日)	当第2四半期会計期間 (平成24年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	854,917	782,748
受取手形	14,363	—
売掛金	250,415	208,027
たな卸資産	※1 30,486	※1 17,721
前払費用	18,693	23,534
その他	1,808	205
流動資産合計	1,170,685	1,032,236
固定資産		
有形固定資産	31,874	27,435
無形固定資産	36,323	41,355
投資その他の資産	111,502	※2 100,781
固定資産合計	179,700	169,572
資産合計	1,350,385	1,201,809
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	56,554	32,354
未払法人税等	7,283	5,652
前受金	40,912	43,015
ポイント引当金	56,219	47,476
その他	127,932	91,590
流動負債合計	288,902	220,089
固定負債		
繰延税金負債	3,496	3,254
資産除去債務	12,737	12,839
固定負債合計	16,234	16,093
負債合計	305,137	236,183
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	591,321	591,321
資本剰余金	895,884	471,377
利益剰余金	△424,506	△79,716
自己株式	△20,865	△20,865
株主資本合計	1,041,833	962,116
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△4	90
評価・換算差額等合計	△4	90
新株予約権	3,419	3,419
純資産合計	1,045,248	965,626
負債純資産合計	1,350,385	1,201,809

(2) 四半期損益計算書  
(第2四半期累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)
売上高	753,342	742,039
売上原価	320,352	263,307
売上総利益	432,990	478,731
販売費及び一般管理費	※1 585,812	※1 544,358
営業損失(△)	△152,821	△65,627
営業外収益		
受取利息	597	442
未払配当金除斥益	3,706	924
その他	1,207	635
営業外収益合計	5,510	2,002
営業外費用		
貸倒引当金繰入額	—	8,577
為替差損	7,489	5,906
その他	351	0
営業外費用合計	7,840	14,484
経常損失(△)	△155,151	△78,108
特別損失		
減損損失	48,860	—
特別損失合計	48,860	—
税引前四半期純損失(△)	△204,012	△78,108
法人税、住民税及び事業税	1,900	1,900
法人税等調整額	△400	△291
法人税等合計	1,499	1,608
四半期純損失(△)	△205,512	△79,716

## (3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税引前四半期純損失（△）	△204,012	△78,108
減価償却費	29,144	12,948
ポイント引当金の増減額（△は減少）	33,825	△8,743
貸倒引当金の増減額（△は減少）	—	8,577
減損損失	48,860	—
受取利息及び受取配当金	△597	△445
為替差損益（△は益）	7,163	5,906
売上債権の増減額（△は増加）	△91,331	56,751
たな卸資産の増減額（△は増加）	3,708	12,765
仕入債務の増減額（△は減少）	821	△24,199
未払金の増減額（△は減少）	△67,775	△28,476
未払消費税等の増減額（△は減少）	2,954	6,364
未払費用の増減額（△は減少）	△19,967	△13,794
前受金の増減額（△は減少）	5,976	2,103
その他	5,363	△5,186
<b>小計</b>	<b>△245,864</b>	<b>△53,535</b>
利息及び配当金の受取額	145	1,717
法人税等の支払額	△3,483	△3,800
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>△249,203</b>	<b>△55,617</b>
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の純増減額（△は増加）	100,000	100,000
有形固定資産の取得による支出	△330	△165
無形固定資産の取得による支出	△75,061	△12,784
投資有価証券の取得による支出	△2,675	—
差入保証金の差入による支出	—	△300
差入保証金の回収による収入	48,957	—
長期貸付けによる支出	△45,320	—
その他	△5	—
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>25,566</b>	<b>86,749</b>
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
配当金の支払額	△1,147	△9
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>△1,147</b>	<b>△9</b>
現金及び現金同等物に係る換算差額	△3,998	△3,290
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	△228,782	27,831
現金及び現金同等物の期首残高	500,880	354,917
現金及び現金同等物の四半期末残高	※1 272,098	※1 382,748

## (4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

## (5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

当社は、平成24年6月26日開催の定時株主総会の決議に基づき、平成24年6月26日付けでその他資本剰余金のうち424,506千円を繰越利益剰余金へ振替いたしました。

なお、株主資本の合計金額には、著しい変動はありません。

## (6) セグメント情報等

## (セグメント情報等)

1 前第2四半期累計期間（自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日）

(1) 報告セグメントごとの売上高および利益または損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期 損益計算書 計上額 (注) 2
	医薬営業 支援サービ ス	マークテ イング 調査サー ビス	医療コン テンツ サービス	計		
売上高  外部顧客への売 上高  セグメント間の 内部売上高また は振替高	527,326	119,003	107,013	753,342	—	753,342
計	527,326	119,003	107,013	753,342	—	753,342
セグメント利益 または損失(△)	163,392	72,213	△61,493	174,112	△326,934	△152,821

(注) 1 セグメント利益の調整額△326,934千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用（報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費）であります。

2 セグメント利益または損失は、四半期損益計算書の営業損失と調整を行っております。

## (2) 報告セグメントごとの固定資産の減損損失またはのれん等に関する情報

調整額において、「eディテーリング®」をはじめとする既存サービスの売上高減少が主な要因となり、前々期（平成22年3月期）から2期連続で営業損失を計上し、当第2四半期累計期間においても営業損失を計上したため、これら既存サービスの販売促進ツールであるケアネット・ドットコム運営システムについて帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上しております。

なお、当該減損損失の計上額は、当第2四半期累計期間においては48,860千円であります。

## 2 当第2四半期累計期間（自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日）

## (1) 報告セグメントごとの売上高および利益または損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期 損益計算書 計上額 (注) 2
	医薬営業 支援サービ ス	マーケテ ィング 調査サー ビス	医療コン テンツ サービス	計		
売上高 外部顧客への売 上高 セグメント間の 内部売上高また は振替高	517,909	116,635	107,493	742,039	—	742,039
計	517,909	116,635	107,493	742,039	—	742,039
セグメント利益 または損失(△)	144,122	78,563	△1,357	221,328	△286,955	△65,627

(注) 1 セグメント利益の調整額△286,955千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用（報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費）であります。

2 セグメント利益または損失は、四半期損益計算書の営業損失と調整を行っております。

## (2) 報告セグメントごとの固定資産の減損損失またはのれん等に関する情報

該当事項はありません。

## 5. 换算情報

## 注記事項

(四半期貸借対照表関係)

※1 たな卸資産の内訳は、次のとおりであります。

	前事業年度 (平成24年3月31日)	当第2四半期会計期間 (平成24年9月30日)
製品	5,483千円	5,183千円
仕掛品	24,567	12,086
貯蔵品	435	450

※2 資産の金額から直接控除している貸倒引当金の額は、次のとおりであります。

	前事業年度 (平成24年3月31日)	当第2四半期会計期間 (平成24年9月30日)
投資その他の資産	一千円	8,577千円

(四半期損益計算書関係)

※1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目および金額は次のとおりであります。

	前第2四半期累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)
給与手当	204,617千円	207,138千円

(四半期キャッシュ・フロー計算書関係)

※1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前第2四半期累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)
現金及び預金勘定	922,098千円	782,748千円
預金期間が3ヶ月を超える定期預金	△650,000	△400,000
現金及び現金同等物	272,098	382,748